匝瑳市地区別防災カルテ

地区名:野田地区

1. 対象と	なる町丁区(地	区面積 糸	勺11.94k㎡)			
小字名	世帯総数	総人口	男人口	女人口	1世帯あたり人員	備考
野手	1,136世帯	3,160人	1,545人	1,615人	2.8人/世帯	
今泉	511世帯	1,477人	732人	745人	2.9人/世帯	
新堀	277世帯	761人	365人	396人	2.7人/世帯	
合 計	1,924世帯	5,398人	2,642人	2,756人	2.8人/世帯	住民基本台帳
	·	•	•		•	H25. 4. 1現在

2.居住者に関する指標:児童人口 0歳~14歳 労働人口 15歳~64歳 高齢者人口 65歳以上 5. 398 ■児童人口■労働人口■高齢者人口 452.1人/km² П 密 密 度 161.1世帯/km 10. 9% 平少人口(児童人口) 590人 10.9% 労働者人口 (労働人口) 3,196人 59.2% 29.9% 医年人口(高齢者人口) 1,612人 29.9% 口 5,398人 29.9% 要援護者台帳登録者数 59.2% 要 援 護 者 支 援 者 登 録 者 数 支援者がいない要援護者の数 支援者がいない要援護者の割合 59.8%

3. 公園						
公園名称	種別	供用面積	公園名称	種別	供用面積	
野栄ふれあい公園	公園	52, 648 m²				

	博裝危険区域、	
津波浸水被害想定区域あり		
危険物施設等		
屋内貯蔵所・屋外タンク貯蔵所・地下タンク貯蔵所		
移動タンク貯蔵所・屋外貯蔵所	12箇所	
給油取扱所・一般取扱所	6箇所	
D他:		
	災害危険箇所、河川・津波浸水被害想定区域・危険物施設等津波浸水被害想定区域あり危険物施設等屋内貯蔵所・屋外タンク貯蔵所・地下タンク貯蔵所移動タンク貯蔵所・屋外貯蔵所	津波浸水被害想定区域あり 危険物施設等 屋内貯蔵所・屋外タンク貯蔵所・地下タンク貯蔵所 移動タンク貯蔵所・屋外貯蔵所 給油取扱所・一般取扱所 6箇所

名称	所在地	電話番
指定避難所	(一次避難所)	
· · · · · · · · · · · · · ·	今泉5323番地3	72-235
上涯学習センター(津波避難所)	今泉6489番地1	67-126
)さかアリーナ	今泉6536番地1	67-126
	指定避難所(一次避難所)	数 3管
	避難施設	
京泉浜津波避難タワー	今泉7942番地1	鉄骨造 高さ8
	指定避難所(二次避難所)	数 0箇
指定緊	急避難場所	
予田小学校(津波避難所)	野手13034番地	67-234
予栄ふれあい公園 	今泉363番地	なし
	指定緊急避難場所数	2箇

※全ての「指定避難所(一次避難所)」が「指定緊急避難場所」を兼ねています。

6. 医療機関			
医療機関名	所在地	電話番号	診療科目
はしば医院	今泉485番地	67-5720	内科・消化器科・外科等
石井歯科医院	野手1577番地	67-2126	歯科
アップル歯科医院	今泉6450番地	67-5363	歯科
のさか歯科医院	今泉6441番地1	67-1004	歯科

7. 3	7. 建物の状況:総数については建築年不明を含む 内訳数については建築年が判明しているもののみ集計					
	構造	総数	S56年6月以前	~H12年6月	~H25年3月	
	木造	4, 591	2, 440	1, 692	288	
非	1-2F	640	268	313	59	
木	3-5F	268	0	8	3	
造	6F以上	313	0	0	0	
	総数	5, 812	2, 708	2, 013	350	

8. 既往災	害の履歴: (平成23年3月11日の東日本大震災~) H28.1月現在
時期	事項
H23. 3. 11	東日本大震災 住家 一部損壊 (159棟)
	上記の内 床下浸水 (19棟) 床上浸水 (6棟)
	非住家 半壊(1棟) 一部損壊(34棟)
	上記の内 床下浸水(5棟) 床上浸水(2棟)
H23. 9. 21	大雨・洪水・暴風・波浪警報 道路冠水 (野手地区の一部)
H23. 10. 22	大雨警報 道路冠水 (野手地区の一部) 及び床下浸水 (野手 1棟)
H24. 9. 30	暴風・波浪警報 倒木 (新堀 1件)
H24. 11. 6	大雨注意報 道路冠水 (野手地区の一部)
H25. 4. 6	暴風・波浪警報 停電 (野手地区の一部)
H25. 9. 16	台風18号 停電 (野田地区の一部)
H25. 10. 15 · 16	台風26号 住家の一部損壊 (4件) 崖崩れ・土砂崩落 (3件) 道路への倒木 (2件) 冠水 (2件)
H25. 10. 20	大雨警報 床下浸水 (野手 1件) 床上浸水 (野手 1件) 道路冠水 (野手地区の一部)
H26. 10. 5 • 6	台風18号 道路への倒木(今泉 1件) 停電(野手・今泉の一部)

9. 防災上の課題・留意事項等

【防災上の課題】

1 野田地区は市の南に位置し、大部分が平野であり、元禄 地震による津波浸水被害想定区域が市内で最も広範囲に存 在する。

日頃から津波に対する避難方法等について確認し、災害 用非常備蓄品を備えておくことが重要である。

- 2 地区内には高台が無く、津波避難ビルに指定できる建物 もないため、津波に対する緊急用の一時避難施設を検討す る必要がある。
- 3 過去の災害履歴において、道路冠水が多く発生している。大雨時には警戒が必要である。
- 4 新堀川付近においては津波時に河川が遡上する可能性が あるため、河川流域周辺の住家は特に注意が必要である。
- 5 東日本大震災において、建物の損壊があったため、建物 の耐震化や室内における強い揺れへの対策を行うとともに 発災時の避難行動等について確認しておくことが重要であ る。

【留意事項等】

- 1 津波避難対策としては、本カルテの裏面図を活用し、あらかじめ津波浸水想定区域の浸水想定箇所を把握し、避難 路や津波避難所までの道順等を確認しておくこと。
- 2 地震震源の位置次第では、揺れからわずか数分で津波が 到達する場合もあるため、地震の揺れがおさまってからす ぐに避難する。なお、災害用備蓄品を備えておく。
- 3 津波は海岸の地形等によって複雑な動きをするため、第 1波より、第2・第3の方が高くなる場合があるため、津 波警報が解除される等、安全が確保されるまでは、海岸付 近等に絶対に近づかない。
- 4 地震対策としては、昭和56年5月末以前に着工された 住宅やアパートは耐震性が低い可能性があるため、耐震補 強工事を行う。
- 5 室内の地震対策としては、家具に転倒防止器具を取付け 固定することや、ガラスが割れても飛散しない防止フィル ムをガラス面に貼る。
- 6 避難時はヘルメットや頭巾等(ない場合は手荷物やカバン)で頭を保護し、あらかじめ準備した災害用備蓄品を持って履きなれた運動靴で迅速に避難する。

